

親が元気になることをめざして

子育て

ドキドキ
ワクワク
イキイキ



我が家の生活の約束事や
ルールをつくろう

家庭でのルール

ルールを守るものは、ルールに守られる。

◆ ルールってだれのためにあるの？

子どもたちは、家庭でのルールや約束を守ったり破ったりしながら、人との関係の在り方や社会のルールの大切さを学んでいきます。

家庭のルールには、あいさつをすること、家に帰る時間や寝る時間、きちんとした姿勢などの「生活上のルール」もあれば、他人に迷惑をかけない、うそをつかないなどといった「道徳上のルール」もあります。

しつけに一貫性を持たせ、しっかりと身につけさせるためにも、夫婦がよく相談してはっきりしたルールをつくり、子どもとともに親もそれを守りましょう。また、子どもの意見を聞いて一緒にルールをつくるという姿勢も大切です。

◆ 子どもの言うことを何でも聞くことが親の優しさとは限らない

安易にモノを買い与え過ぎると、子どもは欲しいモノを手に入れるために努力したり、我慢したり、工夫したりすることをしなくなります。そして、やたらとモノを欲しがり、自分の気持ちを抑えられなくなってしまいます。

ブランド品や携帯電話など、友達も持っているからなどといった理由で安易に買い与えることはやめましょう。子どもが「欲しい」と言ったら、なぜそれが必要なのか、親子でよく話し合ってください。

子どものためを思うなら、お金より、心や愛情を使い、親子の関係を深めましょう。

◆ 情報モラルについて家庭で話し合いを

携帯電話やインターネットは、使い方一つで、役立つ道具にもなれば、子どもの身を危険にさらす道具にもなります。子どもが「使いたい」と言ってきたときこそ、話し合いのチャンス。「なぜ使いたいのか、必要なのか」などについて、親子で話し合い、納得した上で、使うのか使わないのかを決めましょう。

使うときには、それぞれの成長段階に合ったルールを話し合っで決めるとともに、顔の見えない者同士のやり取りに伴う危険性などについて、親がしっかりと教える必要があります。

《我が家のルール》(例)

■フィルタリング(※)機能を設定する。 ■寝るとき、携帯電話を自室(子ども部屋)に持ち込まない。 ■夜 10 時以降は使わない。 ■食事中や家族が一緒にいるときは使わない。 ■他人を傷つけるような使い方をしない。 ■知らないところから来たメールには絶対に返信しない。 ■ルール違反や携帯電話の使用によって生活に支障が生じている場合には、携帯電話の利用を、親が停止する。

◆ 家事を手伝わせたら、子どもがしっかりしてきた

年齢に応じて、おこづかいの額やお手伝いなどの家庭内のルールを決め、子どもの成長に応じて責任と自立を促していくことが大事です。「自分の欲しいものを自分のおこづかいで買う」経験は、子どもたちにとってかけがえのないものです。また、お手伝いは、生きていく上で最低限必要な家事を学ぶ第一歩となります。買い物に行けるようになったり、家の中の整理整頓ができるようになったりすることは、自信にもつながります。

※フィルタリング…一定の基準に基づき、アダルトサイトや暴力的なサイトなど、青少年にとって不適切と思われる多くのホームページを閲覧できないようにするための技術的手段のこと。